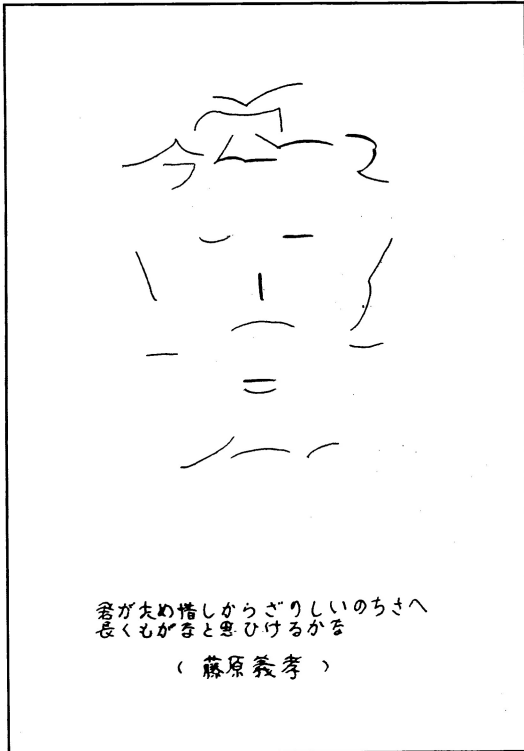




このたびはぬさもとりあへず手向山
もみぢのにしき神のまにまに
(菅 家)



あふことのたえてしなくばあかあかに
人をも身をも恨みざらまし
(中納言朝忠)



香が矢ぬ惜しからざりしいのちさへ
長くもがなと思ひけるがな
(藤原義孝)